

TYPE OF
INDUSTRY



機械・ロボット・航空機

松本産業・設計部

航空・宇宙関連部品の設計・製作

高崎 政之さん

マイスターに
聞く

Meister

150

松本産業（東京都江戸川区、松本洋之介社長、03・3652・6001）で航空・宇宙関連部品の設計・製作を行う高崎政之さん（69）。1965年4月から半世紀もの長い間ロケット製作に携わり、ロケットの進化を支えてきた1人だ。高崎さんがロケットを作りたいと思いついたのは、64年に観測用ロケット「ラムダ」が高度1000メートルに到達したという新聞記事を見たことがきっかけだ。

当時、高崎さんは、茨城県立土浦工業高校機械科の生徒だった。翌年4月、プリンス自動車工業（現日産自動車）に入社し、宇宙航

チーム力が成功のカギ

空事業部へ配属。念願 本産業でロケット製造のロケット製作を担うことになった。ち込んでいる。

高崎さんの入社から5年後の70年、日本初の人工衛星「おおすみ」が打ち上げに成功した。打ち上げまでは着火のトラブルや切断部分の衝突事故など4度の失敗を経験。それらの部品の改良と開発を担当した。

その後、ハレー彗星の観測用のロケットを手がけ、77年頃にはロケットの構造設計や分離放出機構（パラシュート）などロケット製作の大部分を担当し、総括的役割も任された。日産の同事業部が「いいエアロスペース」に定年退職。現在、松

高崎さんは「ロケットは1人では絶対に作れない。数え切れない数の人の力を合わせたチーム力が成功へ近づいた」と強調する。現在、データベースが豊富で昔以上に失敗が許されない風潮があることについて、「経験のない若手には気が毒」としながらも、一つのことにこだわらず、俯瞰的に物事を考えるとうまくいきやすい。周りによく耳を傾け、物事を本質から考える癖をつけてほしい」とこれからの若手に期待を寄せる。

（高橋沙世子）
（水曜日掲載）